

2025年1月27日

各位

株式会社 北海道銀行

～2025年版北海道銀行絵画カレンダー採用作家～  
「西村 昌実 作品展」の開催について

ほくほくフィナンシャルグループの北海道銀行（頭取 兼間 祐二）は、ほくほく札幌ビル1階「らいらっく・ぎやらりい」にて2025年版北海道銀行カレンダー採用作家 西村昌実氏の「作品展」を開催しますのでお知らせいたします。

作品展は、ガラス越しでの鑑賞となりますがカレンダー採用作品の原版的ほか西村氏がこれまで制作した作品を展示いたしますので、ぜひお越しください。

当行は、芸術文化振興に取り組むことで地域社会へ貢献してまいります。



2025年版北海道銀行カレンダー採用作品

記

## 1. 開催概要

期間	2025年2月19日（水）～3月3日（月）7:00～22:00 ※最終日は16:00まで
場所	ほくほく札幌ビル1階 らいらっく・ぎやらりい （札幌市中央区大通西2丁目5番地）
作家	西村 昌実 氏（プロフィールは次ページを参照ください）
展示作品	カレンダー採用作品の原版的のほかイラストレーション作品および立体物 計20点を展示
観覧方法	ガラス越し

## 2. 該当するSDGsの目標



SDGsは Sustainable Development Goals の略称で、2015年に国連で採択された2030年までに達成すべき17の目標と169の具体的なターゲットを定めた「持続可能な開発目標」です。ほくほくフィナンシャルグループは、2019年4月に「SDGs宣言」を表明しました。

以上

&lt;本件に関するお問い合わせ先&gt;

北海道銀行 デジタル戦略部 南部・西東 TEL 011-233-1156  
広報 CSR 室 坂野・住吉 TEL 011-233-1005

## 西村 昌実 Nishimura Masami ハッピーライラック

## &lt;作品解説&gt;

5月、札幌の大通公園は咲き誇るライラックの甘い香りに包まれます。400本もこの公園にあるというライラックの木々は、毎年、紫やピンク、そして白い花々をいっぱいにつけて、街行く人びとに札幌の初夏の訪れを晴れやかに伝えます。まさに札幌市の木として、また北海道銀行の行花として多くの人に親しまれているとあってよいでしょう。

「ハッピーライラック」は、そのライラックの花々を画面の左右に大胆にクローズアップ。しかもさわめてリアルに描かれていて、なんと花の一輪一輪がしっかり描き分けられています。あたかも手で触れることができるようで、その甘い香りも漂ってくるようです。

その向こうに広がるのは、花壇に咲く色とりどりの花や芝生でくつろぐ人たち。そして大通りに面して立ち並ぶビル。その中央にはビルが大きく描かれていますが、これは2024年2月に新たに誕生した「ほくほく札幌ビル」です。

もともとここには北陸銀行があって、エビ茶のタイルと太く白い窓枠によるユニークな建築として知られていました。美術愛好家であれば、ビルの屋上に山内壮夫という北海道ゆかりの彫刻家がつくった「鶴の舞」というモニュメントがあったことを覚えている人もいます。

ほくほく札幌ビルは北海道銀行と北陸銀行が共同で建てたオフィスビルで、そのイメージを一新。全面ガラス張りのファサードや水柱をイメージしたという壁面のデザインによって明るくスマートなビルに変身しました。つまりこの絵は、その新たな姿をライラックの花々で囲むことによって、ほくほく札幌ビルの門出を祝福しているのです。

ところでタイトルの「ハッピーライラック」とは、花びらが5枚のライラックのこと。ライラックの花びらは通常4枚なのですが、まれに5枚のものが見られるのです。これを見つくと幸運が訪れるという言い伝えや、密かに飲み込むと、幸せや願い事が叶うという言い伝えもあるのだそうです。



じつは、作者はそのハッピーライラックをこの絵のなかに描いているのです。5枚の花びらにあやかって5つのハッピーライラックがそれぞれの房に描かれています。ぜひ探してみてください。作者はそのために、ライラックをクローズアップで、しかもリアルに描いてみせたのです。

明るく晴れやかなライラックのある風景。ハッピーライラックを見つけて再びこの絵を見ると、画面はさらに幸福感にあふれていることに気づくでしょう。無邪気に走りまわる子どもたち。ビルの左上から伸びる白い雲。札幌市の「サッポロスマイルロゴ」も、ビル右上のほくほく札幌ビルのロゴマークも、幸せそうに見えるから不思議です。

佐藤 友哉 (美術評論家)

## 作家プロフィール・略歴

## 西村 昌実 (ニシムラ マサミ)

1961年生まれ、北海道赤平市出身。

『北海道総合美術専門学校』(現『北海道芸術デザイン専門学校』)グラフィックデザイン科卒。札幌の広告プロダクションを経て、1986年東京へ移転、フリーのイラストレーターとして活動開始。

1992年札幌へ移転、現在に至る。

リアル・イラストレーションを中心に、建築パース、鳥瞰図、フィギュアなど制作。

北海道イラストレーターズクラブアルファ会員。2013年5月から2019年3月まで会長。

<西村昌実イラストレーションギャラリー>

<https://cockpit1.wixsite.com/nishimura>